

長崎路面電車

開通100周年の軌跡

きっかけ

100周年をむかえた長崎路面電車について、くわしく調べてみました。

はじまり

1915年(大正4年)に開通した。1945年(昭和20年)多くのきせり者を出した原
 げく、1982年(昭和57年)に長崎大水害のかりめつ的な被害を乗りこえて今年
 100周年たつた現在も市民の重要な移動手段として続々とこれている。

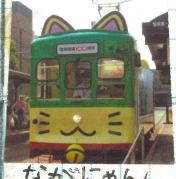
原げく路面電車

僕達が絶対に忘れなくてはならない原げく投下から
 70年。原げくの被害は従業員、110人あまりが亡く
 なり全線不通となり使用可能な車両を全て
 失った。

それから、わずかの3ヵ月半後運転を再開した。
 この後半年間ではほぼ復旧した。それは、従業員
 が全力をふりしげったこと、被災後すぐに三つ
 電気がから発電機を購へてきたことが大きな
 要因だ。

それから

長崎路面電車には方面あたが
 原げく、水害の被害を動かせる車
 一両かものすぐへった。そこで他県の車両を
 けずり受けて今も走らせている。
 熊本・東京・宮ぎで活やくし
 ていた電車も見ることが出来る。



なごりやん
 発行者
 野取 5年
 河原 寛大

長崎大水害

路面電車

昭和57年7月23日に長崎大水害が
 あった。夕方電車が全線にわたって運
 休。30両をうす車両が各所で立ち住生
 となった。現在のようになりけり帯電話
 もなく状況が分からない中乗客の保護
 とひなんにたい心。15トもある車両
 が急流に流されないうようにロープで電
 柱等にくりつけた。運転士の多くは
 翌朝まで現場にのこり車両を守り続け
 た。電車はスゴイ、
 全社員、昼夜を問わず作業にあた
 り水害う日後全線で運転を再開し
 た。この被害で乗客、社員に一人も
 死しう者がいなかった。
 スゴイ、スゴイ、スゴイ

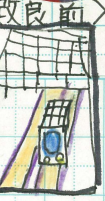


あれから

今や車社会の中で路面電車が生き残った
 理由を調べてみた。
 ◎スピードの低下をふせぎ、出来る限り時間
 を申った。
 ◎安い運ちんごがんばった(夫々12円・小人60円)
 ◎効りつよくコストさくげんを続けた。
 ◎平地が少ないう長崎の地形にたいし、利用り
 つき上げ必要性を高め地りき社会にこうけ
 んすること約束した。
 ◎自動車のはさびたの公害の防止。
 ◎道路じゅうたりの解消。
 ◎エネルギーの効果的利用。
 ◎高れり者・車りすの人のためのたい車両

工夫

現在1日にのべ130本の電車が長崎のまち
 をまわっており、約5500名のお客様が利用し朝
 シは約60両の電車が通きん通学の足と
 して活やくしてりる中で色々な工夫を紹介
 します。
 ①電車まわりゅう場改ぜん
 ②センターホール化
 都市景観、都市防災、歩道空間、通信機等の
 都市機能の向上を回るためにクモの業状に
 はりめくられた電線と地中化事業と
 合わせてセンターホール化を行、りる。
 (平成18年3月末現在44%)
 39ていりゅう場中
 29ていりゅう場改ぜん



取材を終えて

今回は、長崎電気軌道(株)
 のふい本さんにお話を聞かせ
 てもらいました。その中で
 て大事なことをお、しゃっ
 てりました。
 それは、ブレーキせりどう
 きよりのこと。右の例の
 ように、止まるまで路面電車
 は車の2倍近くかがるので急
 に線路に飛び出しそきて止
 まることかごきなりので、こ
 のことを知、こほしいとのこ
 とです。
 今回取
 材をして
 身近な路
 面電車の
 事を詳し
 くうぶことができてよかつたで
 す。ブレーキせりどうきよりの事
 を知て事故かへればいかなと思ま

